

受け継がれし伝統芸能 次世代へつなぐ古き良き伝統



写真提供：国立劇場おきなわ



写真提供：国立劇場おきなわ



国立劇場おきなわ

【住所】浦添市勢理客4-14-1
【電話】871-3350

国の重要無形文化財「組踊」を中心とする沖縄伝統芸能の保存振興を図るとともに、沖縄の地理的・歴史的な特性を活かしたアジア・太平洋地域の拠点としての、平成16年1月に開場しました。

国の重要無形文化財指定、ユネスコ無形文化遺産登録された「組踊」とは？

首里王府が中国皇帝の使者「冊封使」を歓待するために創作された芸能で、音楽と舞踊、台詞で構成された沖縄独特の歌舞劇です。1718年、踊奉行に任命された玉城朝薫（1684〜1734年）が、琉球古来の芸能や故事を基礎とし、能や狂言、歌舞伎などの大和芸能の影響をうけて創作しました。1719年、尚敬王の冊封式典の後に行われた宴で、初めて上演され好評を得て以来、士族階級で観劇され、また、廃藩置県以後は市井の舞台で演じられました。昭和47年、沖縄が本土復帰すると同時に組踊は、我が国の優れた芸能のひとつとして、音楽、歌舞伎、文楽などと同じ、国の重要無形文化財に指定を受けました。また、平成22年11月には国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産保護条約に基づく、「人間の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載されました。

祭の中で見られる 伝統芸能



の男子が演じています。ひとりで演ずる一人棒や、大勢で演ずる巻き棒などがあります。

【獅子舞】

勢理客、内間、仲西の旧暦8月15日の夜に、厄払いと五穀豊穡、子孫繁栄を祈念して行われています。いずれも市の無形民俗文化財に指定され、勢理客の獅子舞は国選択の無形民俗文化財にもなっています。

現在はそれぞれの獅子舞保存会によって保存継承されています。

獅子舞は戦前まで沢岬、安波茶にも伝承されていたそうです。

沖縄から生まれた新しい芸術 琉球オペラアオリヤエ

琉球オペラ創出事業は、市内児童生徒の社会性・創造性向上を目的に平成12年度から「アオリヤエ」として市内の青少年を中心に公演し、平成24年度には、メンバーに一部プロキャストを加えました。平成25年度からは、これまでの公演を踏まえ、質の高い琉球オペラ創出を目標に、脚本、演出、作曲を見直して、プロのソリストを中心にグレードの高い舞台を創りあげています。琉球ロマン「アオリヤエ」は古き良き伝統に新しい風を吹き込んだ新たな芸能となっています。

熱い鼓動を伝える鼓衆

【鼓衆若太陽（ちんしゅうわがていど）とは？】
鼓衆（ちんしゅう）とは、太鼓を打ち鳴らす人々を意味し、太陽の島沖縄、太陽の都市浦添に生まれ育った文化や伝統に絶えずこだわりを持ちながら、さらに新しい文化を創造するエネルギーを若者たちの情熱を表したのが若太陽わがていどです。

【鼓衆若太陽の活動】

鼓衆若太陽は、平成6年に結成し、琉球和太鼓、エイサー、獅子舞などの創作芸能を中心に県内外の祭り、チャリティなどの様々なイベントへ積極的に参加し、海外遠征へもはたしています。若太陽は、現在15人程度の成人を中心としたメンバーにより構成されています。

【鼓衆グループ】

鼓衆若太陽は、平成6年に青少年の健全育成の環として、子ども達へ創作した演舞の指導を開始。浦添市を中心とした各地域に、幼稚園児から高校生までをメンバーとしたチームを立ち上げ、鼓衆グループを結成。現在では14団体（200人）の子ども達へ太鼓指導を行っています。



【棒術】 本来は下級武士や農民の間で護身用として用いられた棒術が農村の祭りに取り入れられたもので、ムラに侵入してくる悪疫等を追い祓う浄めの意味がありました。

前田、内間の旧暦8月15日の夜に、ムラの発展と子孫繁栄、豊年満作を祈願して行われています。いずれも市の無形民俗文化財に指定されており、それぞれの棒保存会で伝統を受け継いでいます。

前田の棒
前田の棒は数え年15歳から35歳まで